

SAWG3 第1回会合議事録

日時：2020年12月18日（金）13:30-15:30

場所：オンライン（Webex）

出席者：出席者は以下の19名（敬称略、あいうえお順）。

委員：浅沼（東海大）、天野（JAEA）、池田（東工大）、
江藤（三菱総研）、大野（JAEA）、加藤（電中研）、
京（TEPSYS）、小玉（JNFL）、関口（電中研）、
塚田（JNFL）、中嶋（MRA）、藤原（TEPSYS）、
岡岡（UI 技研）、村松（東京都市大）、山根（JAEA）、
吉田（一）（JAEA）、吉田（尚）（JAEA）、吉田（涼）（JAEA）

オブザーバー：井野（NDF）

別紙に現時点での名簿を添付する。

議題

1. 委員の確認
2. 趣意書作成に至る経緯
3. 趣意書内容の確認
4. 幹事グループ(主査、副主査、幹事若干名)の選定
5. 作業方針について

主な決定事項

- (1) 幹事グループについて、次のように選定した。主査：山根、副主査：村松（1年間）、幹事：天野、小玉。但し、今後必要に応じ追加する。
- (2) メーカー関係者へ参加を打診する。
- (3) スケジュールについて3年程度で報告書を作成する。
- (4) サブワーキングの設置：各メンバーは、参加を希望するサブワーキンググループを12月25日までに山根主査あて連絡する。
- (5) 次回会合について、2021年1月29日（金）13:30-15:30程度とする。

議事

1. 委員の確認
自己紹介を行った。
2. 趣意書作成に至る経緯

松岡、村松、池田、吉田（一）、小玉、山根から、これまでの SAWG 活動（フェーズ 1 および 2）についての説明がなされた。

福島第一事故後の新規規制基準制定の過程で、核燃料施設に関しては、重大事故の評価に際して、設計基準事象を上回るものを一律に扱う方向が示されていたが、影響の小さい事故に過大な対策を採ってしまうことや真に重要な事故への対策が不十分になる恐れがあるとの懸念から、リスク評価を踏まえた合理的な対応について検討すべきとの考えを共有する有志が提案してフェーズ 1 の活動を開始し、グレーデッドアプローチの推奨を行うに至った。フェーズ 2 では、再処理施設の重大事故の評価手法について調査・整理を行った。

3. 趣意書内容の確認

山根からフェーズ 3 設立趣意書の内容の説明がなされた。

フェーズ 3 では、「これまでの両フェーズでの取り組みを展開し、適用段階でのモデル選択およびリスク評価手法例に関するガイドを与える試行研究」を主に実施する。

議論：

- ・ メーカーの知見を参照することも重要。メーカー関係者への参加勧誘を検討したい。
- ・ 若い人向けの勉強用のテキストとなる報告書を作成することも目的としたい。
- ・ 「学会の標準委員会の技術レポートとの関係に留意すべき」、その他の平野光将氏 (SAWG フェーズ 1 及びフェーズ 2 委員)からのコメントが紹介された。
- ・ 技術レポートには審査は必要ないのではないか？⇒標準委員会が発行する文書に関する審査の有無は文書のレベルによる。また、文書の分類は、最近の性能規定化の動きの中で変わってきていることも踏まえて、標準委員会における標準及び技術レポートの分類と審査の手順について確認しておく必要がある。ただし、標準委員会の技術レポートに位置づけなくとも、学術的な公開文献として引用できるものにすれば価値がある。技術レポートとすることを前提とする必要はないと思われる。
- ・ サンプル問題作成で中心となるのは、影響（放出量）か？それとも発生確率か？⇒物理・化学モデルの適用方法検討である。影響評価が中心であるが、リスク（頻度×影響）を計算する。ただし、リスク評価でイベントツリーを使う際には、分岐確率を設定する際に物理・化学モデルによるバラツキや不確実さの調査・検討結果を基にして行う場合があり、それはこのグループで担当する必要があると考える。なお、サンプル問題は現実に則した、比較的単純な設定にする。

- ・ フェーズ3活動の成果の一部として PIRT(Phenomena Identification and Ranking Table)を作成できないか。軽水炉では、解析コードの妥当性を規制機関に示す際に、PIRT を参照しつつ説明することを求められている。調査結果、サンプル計算の結果に基づいて PIRT を作成できれば有意義である。⇒事故ごとのサブグループで検討したい。

4. 幹事グループ(主査、副主査、幹事若干名)の選定

互選により以下のように決定した。

主査：山根

副主査：村松（1年間）

幹事：天野、小玉

ただし、幹事については今後提案があれば WG で検討し、追加することとした。

5. 作業方針について

(1) スケジュール

山根から報告書作成までのスケジュール案の説明がなされた。

R2 年度：サンプル問題案作成

R3 年度：試行研究

R4 年度：まとめ・報告書作成、論文・ATOMOΣ記事作成

(2) サブワーキンググループの編成

サンプル問題解析については、3種の事故（水素爆発、蒸発乾固、臨界）に注目し、それぞれを担当するサブワーキンググループ（SW）を編成することとした。原則として各メンバーは1個（またはそれ以上）の SW に参加することとし、12月25日（金）までに主査宛に参加希望 SW を伝えることとした。

議論：

- ・ 学会発表(企画セッションなど)も行いたい。
- ・ 安全対策も考慮するのか？⇒事故ごとに検討する。現状の安全対策にどのようなものがあるのか、全員で情報共有すべき。

次回会合：

次回会合について、2021年1月29日（金）13:30-15:30 程度とした。

以上

別紙

SAWG3 参加者名簿

氏名（所属）
浅沼徳子（東海大）
天野祐希（JAEA）
池田泰久（東工大）
井野 孝（NDF）
江藤 淳二（三菱総研）
大野 卓也（JAEA）
加藤徹也（電中研）
京 久幸（TEPSYS）
小玉貴司（JNFL）
鈴木達也（長岡技大）
関口 裕真（電中研）
塚田 毅志（JNFL）
中嶋 結（MRI）
藤原 大資（TEPSYS）
松岡伸吾（UI 技研）
村松 健（東京都市大）
山根祐一（JAEA）
吉田一雄（ JAEA ）
吉田尚生（JAEA）
吉田涼一郎（JAEA）